



男女共同参画社会をめざす

—— ゆうレポート

REPORT

東京都北区スペースゆう情報誌

PICK UP

ようこそ! 「スペースゆう」へ

INFORMATION

毎年6月23日~29日は
男女共同参画週間です

スペースゆう

令和5年度 年間事業予定

特集

性の多様性を
尊重し合える社会をめざして

北区パートナーシップ宣誓制度の開始から1周年をむかえました

性の多様性を尊重し合える社会をめざして

～知っておきたいSOGIとLGBTQ+の基礎知識～

レインボーノッツ合同会社 代表 五十嵐 ゆり

北区では、人権を尊重し、多様性を認め合う地域社会をめざした取組みを進めています。今回は、「性の多様性」の理解・啓発をめざし、レインボーノッツ合同会社代表の五十嵐ゆりさんに、LGBTQ+の基礎知識の解説から私たち一人ひとりにできることについて、ご紹介いただきます。

SOGIとLGBTQ+の基礎知識

性のあり方を構成する要素のうち、性的指向(ごういつた)人を好きになるのか、性自認(自分の性別をどう認識しているか)という2つの要素を表す「SOGI(ソジ)」という言葉があります。性別表現(Gender Expression)を加えてSOGIE(ソジー)と表すこともあります。性的指向は異性性に向く人もいれば、同性性に向く人もいますし、他人に対してそのような関心が

誰もがもつ要素を表す言葉

SOGI

(ソジ)

S O
Sexual Orientation
(性的指向)

G I
Gender Identity
(性自認)

自分自身も含めた「性の多様性」を尊重し合うこと

ないという人もいます。また、生まれた時に割り当てられた性別と性自認が一致している人もいれば、異なる人、どちらとも言えないという人もいます。それぞれの要素で多数派・少数派に分かれますが、自分自身も含めた誰もが、多様な性のあり方を生きる一人ひとりであると表現しても良いのではないのでしょうか。「LGBT」とは、好きになる対象が同性性に向くレズビアン(Lesbian)やゲイ(Gay)、好きになる対象が女性・男性の両方であるバイセクシュアル(Bisexual)、生まれた時に割り当てられた性別と性自認が異なるトランスジェンダー(Transgender)、それぞれの名称の頭文字をまとめた言葉で、性的マイノリティの総称の一つとして使われています。

最近では、LGBT以外の多様な性のあり方が認識されるようになりました。自身の性のあり方について特定の枠に属さない人・分らない人・決めていない人を指すクエスチョニング(Questioning)、規範とされる性のあり方以外を包括的に表すクィア(Queer)、記号の「+」(プラス)は、さらに多様な性のあり方で生きる人々を含む意味合いがあります。「LGBT」でも間違いはありませんが、より多様な人

を含めようという文脈で、「LGBTQ+」が使われるようになってきました。

カミングアウトとアウティング

「カミングアウト」とは、LGBTQ+の人が自分の意思で自らの性のあり方を他者に伝えることを指しています。ですが、当事者の考え方もさまざまです。自分らしく生きていくために伝えたいという人もいれば、他者へのカミングアウトを望まない人もいます。いつ誰に、どう伝えるかは本人が決めることなので、強制や詮索は控えましょう。

厚労省の調査によると、職場でカミングアウトしている人の割合は約2〜3割という結果が明らかになっています。多くの当事者は、周りの偏見や差別を受けることを恐れ、カミングアウトしていない状況であると考えられます。

一方で、本人の同意なく第三者がLGBTQ+であることを周囲へばらしてしまうことを「アウティング」と言います。当事者の方にとって、自分が考えているタイミングでも望む表現でもない形で周りに知られてしまうことは、「いじめや嫌が

第2回LGBT当事者の意識調査(ライフネット生命委託調査)。

また、その人のSOGIは、大切な個人情報です。「良かれと思って」という思いからであっても、アウティン

グはプライバシー権の侵害にあたり、被害を受けた人が命を落としているケースもあります。十分に注意しましょう。

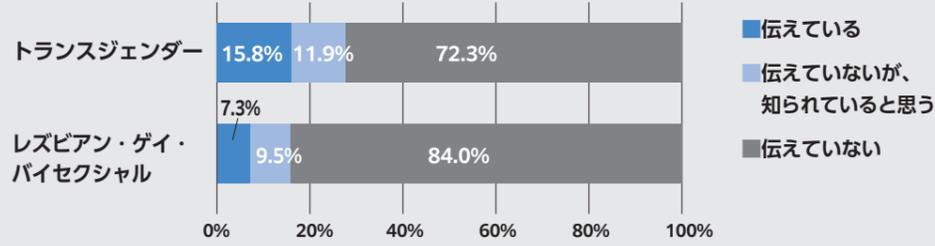
あなたもアライのひとに

LGBTQ+の人、そうかもしれない人、そして誰もが安心して暮らせる地域や社会のために、一人ひとりにできることはなんでしょう。か。「もし身近な人からカミングアウトされたら、どうしよう」と不安に感じている人がいるかもしれません。まずは落ち着いて、相手の話をじっくり聞いてみてください。

LGBTQ+の人が、誰かにカミングアウトする理由や背景はそれぞれです。私の場合は、ただ知っておいてほしいという思いから伝えることが多く、伝え後はコミュニケーションがとても楽になりました。異性愛者のふりをして嘘をつき続ける罪悪感がなくなって、ようやく本当の人間関係が築けるようになったと感じられる経験を数多くしています。

誰かが自分のことを分かってくれている、否定せず受け止めてくれる仲間がいる、自分らしくいられる場所があるということにはLGBTQ+

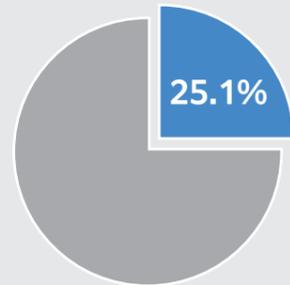
Q. いまの職場の誰か一人にでも、自身が性的マイノリティであることを伝えているか



出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「厚生労働省委託事業 職場におけるダイバーシティ推進事業 報告書」2020年

深刻なアウティング被害

アウティングされた経験がある



当事者：1万人回答

出典：宝塚大学看護学部日高教授 第2回LGBT当事者の意識調査(ライフネット生命委託調査)2019年調査

アウティング = 本人の了承なく、第三者へその人の性的指向や性自認を暴露すること

- 教員に打ち明けたら、保護者や他の教員に知れ渡ってしまった
- 相談した上司には、「他の人には自分のタイミングで伝えたい」と言ったのに、勝手に他の人に伝えられてしまった
- 「今度入社してくる人はゲイです」と、管理職が他の社員に勝手に伝えた

アウティング被害を受けた人が命を落としてるケースも

Profile

いがらし・ゆり

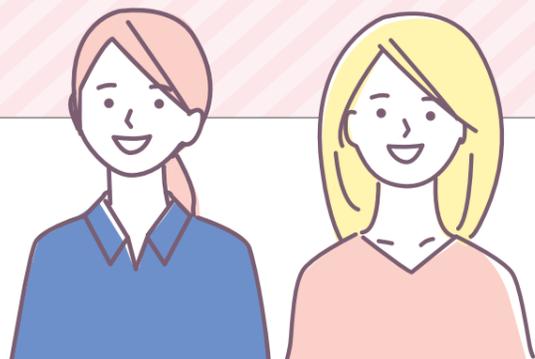
1973年東京都生まれ。2012年、LGBTQ支援団体Rainbow Soupを発足。2015年3月にNPO法人化し、レズビアンであることを公表。2015年、米国国務省主催のLGBTプログラム研修生に選抜され、全米各地を訪問。2018年、レインボーノッツ合同会社を設立。企業・自治体のSOGI・LGBTQ施策支援を展開。筑紫女学園大学非常勤講師のほか、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所認定トレーナー、プライドハウス東京共同代表を務めている。



北区では、性自認・性的指向などに関する悩みについて、相談専門員や弁護士が無料で相談に応じる事業(8ページ参照)や、4月からはLGBTQ+の人を対象とした無料の交流会が開催されています。ぜひご利用ください。

北区パートナーシップ宣誓制度の開始から 1周年をむかえました

北区では、多様性を認め合い、誰もがいきいきと生きることが出来る差別のない人権尊重社会の実現をめざし、令和4年4月1日に「北区パートナーシップ宣誓制度」を開始しました。制度開始から1周年をむかえるにあたって、宣誓した方にご協力いただき、アンケートとインタビューを実施しました。



Interview

パートナーシップの宣誓を行った方に インタビューを行いました

Q1 宣誓したきっかけ

北区でパートナーシップ宣誓制度の申請ができるようになることを心待ちにしていました。

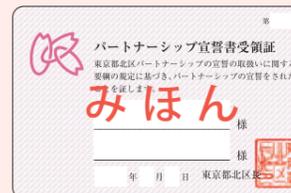
私たちは、パートナーシップ宣誓制度を利用していなかった時でも、何かに困っているという状況はありませんでした。同性間の婚姻制度がない日本では、パートナーシップ制度は婚姻のようなもので、長年一緒に暮らしている私たちにとって、制度ができたら宣誓することには、とても自然なことでした。

制度ができるようになったとき、「心宣誓する」ということではないか？と、確認をしてみました。

Q2 宣誓後に
変化したこと

結婚できたような、形も家族になれたような気持ちの変化は大きいです。カミングアウトをしている人などに相手のことを話す際、「彼女」ではなく、「パートナー」という言葉を無意識に使うようになりました。

また、周囲からの応援の言葉が



北区パートナーシップ宣誓制度とは

一方または双方が性的マイノリティである二人が、互いを人生のパートナーとし、日常生活において相互に協力し合うことを誓い、パートナーシップ宣誓書を提出した場合に、北区がパートナーシップ宣誓書受領証を交付する制度です。北区は、「東京都パートナーシップ宣誓制度」との連携協定を締結しており、北区発行のパートナーシップ宣誓書受領証をお持ちの方は、都の受理証明書と同様に、都の事業等（都営住宅への入居申込等）においてご利用いただけます。

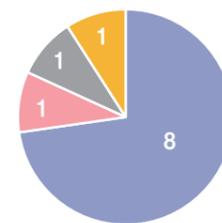
問い合わせ先 北区役所 総務部 多様性社会推進課 東京都北区王子 1-11-1
電話 03-3913-0161 受付時間 9:00～17:00（月曜、祝日、祝日の翌日の火曜、年末年始を除く）

アンケート結果

宣誓者を対象としたアンケートを実施しました。皆様からいただいた声をご紹介します。（実施期間：令和4年2月15日～3月15日 回答者数：11名）

宣誓した主な理由

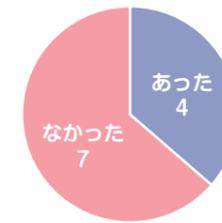
- 関係性を証明するため
- 絆を深めるため
- 宣誓書受領証の利用のため
- その他



宣誓後の生活や気持ちの変化

変化があった方のコメント

「絆が深まった」
「婚姻制度ほどの効力がなくとも公的な証明を得られたことによる安心感(手術の同意者の認定など)」
「お互いをパートナーと堂々と呼び合えるようになった」
「関係性がはっきりしたことで、職場等でも話題にしやすいようになった」
「カミングアウトをしていなかった人にパートナーとの関係を説明する機会が増えた」



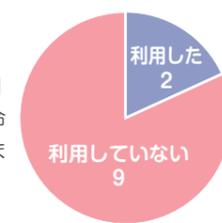
その他コメント

「自分が生きているうちに、ここまで世間の理解が深まるとは思っていませんでした」
「パートナーシップ宣誓を根拠に生命保険の受取人をパートナーに指定しても、生命保険料控除の対象にはならない」
「どちらかが病気でICUに入ったとき等の家族面会ができるようになってほしい」

宣誓書受領証の利用

利用した方のコメント

「勤務先の福利厚生(祝金・休暇)」
「パートナーを受取人とする生命保険に申し込んだが断られてしまった」



Q3 これからの社会に
願うこと

耳に入りやすくなった気もしています。例えば、「同性間の婚姻制度が早く制定されて欲しい」ということを私たちの周りの人達が言ってくる機会が増えたのは、嬉しい変化です。しかし、婚姻制度などの法的な変化に関しては進んでいないのが残念な点です。

まずは、同性間の婚姻制度の制定について、早急に動いていただきたい。これは切実な願いです。私たちはもう15年一緒に過ごしています。同性間の婚姻制度があれば、とっくの昔に婚姻届を出しているはず。制度がないというのは、社会から無視をされているような、無いものとされているような気持ちになることもあります。そして、同性カップルが特別視されていると感じることも少なくありません。「カミングアウト」というハードルが課されない社会になっていくことを願っています。

Q4 里親制度について

里親制度について知ったのは、

北区で活動中の団体 Rainbow Tokyo 北区より パートナーシップ宣誓制度1周年によせて

北区パートナーシップ宣誓制度が導入されてから、今年の4月1日で1周年を迎え、性の多様性における取組みが少しずつ広がり始めていることを嬉しく感じています。一方で、区民のLGBTQ+/SOGIEに対する理解は、果たしてどれくらい深まっているでしょうか。自治体におけるパートナーシップ制度は、あくまで自治体が同性カップル等を公的な関係と示すもので、そこに法的な関係はありません。また、性的少数者に対するイメージ、性的指向・性自認については、依然として誤解や偏見が多いことも事実です。市民団体「Rainbow Tokyo 北区」が発足して約6年、引き続き、誰もがいきいきと輝ける北区を目指し、区と協働しながら、正しい理解が広がるよう活動を続けてまいります。

Rainbow Tokyo 北区 代表 時枝 穂

Rainbow Tokyo 北区

LGBTQ+関連の施策を含むダイバーシティを推進する活動を行っている。性別、年齢、国籍や文化、障がいの有無など、人と人との「ちがいを認め尊重し、多様性あふれる地域社会、豊かで明るい未来を目指している。

2017年頃のことです。もとより、私たちのどちらかが出産するという考えはなく、二人だけで生活をしていこうと思っていました。二人で生活を続けていくうちに、子どもがいる生活をぼんやりと望むようになりました。

2018年に東京都の里親制度が変わり、婚姻していなくても里親登録ができるようになったことをきっかけに研修を受け、登録しました。研修では、男女のご夫婦ばかりで、女性二人で参加しているのは私たちだけでした。ギョッとしましたが、こまめにやり取りをする児童相談所の担当ワーカーさんたちに、特別視されることもなく、親身に対応していただいています。この間、数人の子どものために、数日から最大二ヶ月、我が家で生活をしました。我が家が、「女性二人の里親だから」と、望んで来てくれた子もいました。

里親の活動には、子どもと生活を喜びや楽しさを与えてもらっています。さらに社会貢献の一つとしてもとらえており、今後も続けていきたいと思っています。

当インタビューは、書面にて回答いただき、一部編集を行って掲載しています。

毎年6月23日～29日は
男女共同参画週間です

無くそう思い込み、守ろう個性
みんなでつくる、みんなの未来。

令和5年度「男女共同参画週間」
キャッチフレーズ(内閣府)

1999年6月23日に公布・施行された「男女共同参画社会基本法」を所管する内閣府は、毎年6月23日から29日を「男女共同参画週間」として、さまざまな取り組みをしています。今年も、世界共通の「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げる17の目標の1つ「5.ジェンダー平等を実現しよう」に注目し、日本はもちろん、世界のすべての国で、男女共同参画社会の実現と女性の活躍推進を願い、未来をイメージしたキャッチフレーズが選ばれました。

北区でも、「男女共同参画週間」に合わせて、毎年6月に講演会と映画会を開催しています。今年も、地球上のさまざまな状況で暮らす人々に思いを馳せてもらえるような内容です。今を生きる私たちに何が出来るか、この機会に考えてみませんか。

スペースゆう
令和5年度 年間事業予定

講座・講演会・啓発セミナー …*は共催・連携事業
区民企画協働事業 …北区と、男女共同参画をめざす団体が協働して事業を行います。[]は団体名

スペースゆうでは、さまざまな企画を開催します。みなさまのご来館をお待ちしています。

4月		10月	女性の活躍推進応援塾 再就職準備セミナー *	5回連続講座 さんかく大学
5月	読書会 Light House 女性の活躍推進応援塾 エンパワーメントセミナー *	11月	女性の活躍推進応援塾 キャリアアップセミナー * DV 理解基礎講座 * 区民企画協働事業 [ママと子と地域をつなぐ~ゆう絆] (3回講座)	職業教育キャラバン
6月	北区男女共同参画週間 講演会・映画会	12月	読書会 Light House ワーク・ライフ・バランス講演会 (企業向け) *	
7月		1月	男性向け講座	職業教育キャラバン
8月	読書会 Light House	2月	防災講座 *	
9月	区民企画協働事業 [一般社団法人デジタルママ協会] (2回講座) ワーク・ライフ・バランス講演会 (一般向け) *	3月	読書会 Light House	

*現時点での予定です。事業名や開催時期等は変更になる場合があります。詳しくは北区ホームページをご確認ください。

w e l c o m e

ようこそ! スペースゆうへ

「スペースゆう」は、王子駅から徒歩2分、北とびあ5階にある男女共同参画活動拠点施設です。

性別にとらわれることなく、誰もがいきいきと暮らせる社会の実現をめざして、講座の開催・相談・情報提供などを行っています。区民同士が交流できるスペースや喫茶もあります。どうぞ気軽に足を運んでください。



講座

学びを通して出会い、そして自身の生き方などを見つめ直し、成長する場となるような講座を、年間を通して企画・実施しています。皆様の参加をお待ちしています(7ページ「年間事業予定」参照)。



情報

情報コーナーでは、男女共同参画や多様性に関する図書、行政資料、雑誌、DVD等の閲覧と貸し出しを行っています。情報誌「ゆうレポート」を年3回発行しています。「ゆうレポート」は、北とびあ1階、区内各施設や薬局、駅のスタンドなどでも入手できます。



北区男女共同参画活動拠点施設
スペースゆう

交流

オープンスペースでは、少人数の打合せ、情報交換ができます。お気軽にご利用ください。また、社会福祉法人「ドリームヴィ」の就労支援事業として運営されている喫茶「友」が併設されています。軽食や飲み物、「スワンベーカー」のパンなどをご用意しています。



相談・自立支援

「こころと生き方・DV相談」・「女性のための法律相談」・「にじいろ電話・法律相談」・「女性のためのLINE相談To U」など、さまざまな相談が受けられます。さらに、予約なしで相談できる「北区DV専用ダイヤル」もあります。相談は全て無料で、秘密は厳守します(8ページ「スペースゆう相談窓口」参照)。



